

# 日中韓印経済連携・協力の意義と方向性

2024. 11. 23 sat. 開場:12:30 13:00~17:00

**会場** 愛知大学名古屋キャンパス本館20階大会議室(定員50名)  
オンライン(ZOOMウェビナー)同時配信(定員200名)

共催 一般財団法人 インド経済研究所 後援 中日新聞社

## プログラム(使用言語:日本語)

- 13:00 総合司会 高明潔(愛知大学教授・ICCS運営委員)  
学長挨拶 広瀬裕樹(愛知大学理事長・学長)  
主催者挨拶 李春利(ICCS所長)  
趣旨説明 高橋五郎(愛知大学名誉教授、ICCSフェロー)
- 13:30 特別講演 **榊原英資氏**(財)インド経済研究所理事長、元財務官  
「日印関係のこれまでの経緯と今後の展開」
- 14:00 パネラスピーチ
  - ・苑志佳氏 立正大学教授  
「中・日韓印「政冷経熱」から「政熱経熱」への回帰可能性を考える」
  - ・百本和弘氏 日本貿易振興機構(ジェトロ)調査部中国北アジア課アドバイザー  
「限界に直面する韓国の対中貿易・ビジネスと気になるインド」
- 14:30 休憩
- 14:45 コメント 佐藤元彦、金湛、田中英式  
(愛知大学教授・ICCS運営委員)  
ゲスト3名の回答・補足
- 15:30 全体討論(70分)  
パネリスト 榊原英資、苑志佳、百本和弘  
河辺一郎(愛知大学教授・ICCS運営委員)  
モデレーター 高橋五郎
- 16:40 全体総括 土屋仁志(愛知大学准教授・ICCS運営委員)  
閉会の挨拶 唐燕霞(愛知大学教授・ICCS運営委員)

**参加無料・事前申込** 締切日:11月20日(水) (定員人数になり次第、受付終了)

【参加申込方法】: ICCSホームページにて  
<https://iccs.aichi-u.ac.jp/event/entry-4992.html>



【お問い合わせ先】: 愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室 TEL:052-564-6120  
URL:<https://iccs.aichi-u.ac.jp> Email:iccs-event@ml.aichi-u.ac.jp



## 趣旨

日中韓FTAをめくり、愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)は、国際中国学の応用の一環として、2011年、ICCS+北京大学(国家発展研究院)+韓国国際経済研究所の3機関共催による「日中韓自由貿易区構想」協力プロジェクトを開催、以降も数回のワークショップ等を開催してきた。

時を経た今年5月、ソウルで開催された3か国首脳会談では、日中韓FTAの実現を確認した共同宣言がまとめられ、ここへきて、その動向が再び注目されるようになった。

他方、日中韓それぞれは大国志向を強めるインドとの多方面にわたる2国間関係のあり方を模索し始め、その動向が日中関係および日中韓FTAのゆくえに何らかの影響を及ぼす可能性も否定できない。とすれば、それはどのようにか、あるいはどのような点においてか、という課題が浮かび上がってこよう。

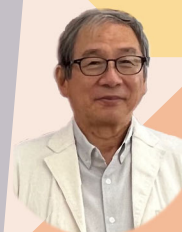
そこで、日中関係研究を基軸とするICCSの立場から、日中韓印それぞれの経済連携等の現状がどのような段階にあるかに注目し、今後における展望と方向性を考えてみたい。



えん しか  
苑 志佳

中国河北省生まれ、中国対外経済貿易大学国際貿易学部卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士)。立正大学経済学部助教授を経て、現同大学教授。産業学会会長・理事、中国経済経営学会理事。

主な著書に、『中東欧の日系ハイブリッド工場一拡大EUに向かう移行経済における日系企業』(編著)東洋経済新報社、2006年。『現代中国企業変革の担い手一多様化する企業制度とその焦点』(単著)批評社、2009年。『中国企業対外直接投資のフロンティア「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開』(単著)創成社、2014年。『21世紀資本主義世界のフロンティア一経済・環境・文化・言語による重層的分析』(共編)批評社、2017年。『世界進出する中国型多国籍業』(単著)創成社、2023年、など多数。



たかはし ごろう  
高橋 五郎

愛知大学・法経学部経済学科卒業、農学博士(千葉大学)。愛知大学名誉教授、国際中国学研究センター(ICCS)フェロー(元所長)、中国経済経営学会第3代会長(現名誉会員)。

主な著書に、『食料危機の未来年表』(朝日新書、2023)、『中国が世界を牛耳る100の分野』(光文社新書、2022)、『中国土地私有化論の研究』(日本評論社、2020)、『新次元の日中関係』(編著・日本評論社、2017)、『海外進出する中国経済』(編著・日本評論社、2008)、『中国経済の構造転換と農業』(日本経済評論社、2008)など。

## 登壇者プロフィール



さかきばら えいすけ  
榊原 英資

東京大学経済学部卒、1965年に大蔵省に入省。ミシガン大学に留学し、経済学博士号取得。1994年に財政金融研究所所長、1995年に国際金融局長に就任。1995年の超円高危機の日本経済において、外為市場でダイナミックな円売り介入を実施し「ミスター円」と呼ばれた。1997~99年に財務官を務め、退官後は慶応義塾大学教授、早稲田大学教授を経て、2010年4月から青山学院大学特別招聘教授および(財)インド経済研究所理事長。近著に『超大国インドのすべてがズバリわかる!』(ビジネス社)、『書き換えられた明治維新の真実』(詩想社)、『「金融緩和時代」の終焉、世界経済の大転換』(詩想社)、『財務官僚の仕事力』(SB新書)、『インド・アズ・ナンバーワン 中国を超えるパワーの源泉』(朝日新聞出版)など。



もももと かずひろ  
百本 和弘

日本貿易振興機構(ジェトロ)調査部中国北アジア課アドバイザー。

神奈川県生まれ。1985年慶應義塾大学商学部卒業。民間シンクタンクで産業調査・市場予測業務に従事した後、2003年9月、ジェトロ入構。ソウル事務所次長、海外調査部主査(北東アジア担当)等を経て、2023年3月末に定年退職。2023年4月より現職、韓国経済・産業をウォッチ。著書に「韓国経済の基礎知識 第2版」(2015年、ジェトロ)等、レポートに「韓国の対中直接投資の推移」『韓国経済研究』(九州大学韓国経済研究会、2023年)等。